

# 情報処理センターは何をしてきた？

情報処理センター 福井 市男

## 1 情報通信革命がはじまって

ここ 10 年の情報通信革命のキーワードはインターネットでしょう。本学のキャンパスでも、情報処理センター発足当初の LAN もなかった頃から、今は各研究室や事務室、図書館等のほとんどすべてのパソコンが LAN につながっています。教職員・学生など大学のすべての構成員がメールや Web を使えるようになりました。全学で情報基礎教育が実施され、共通教科書も出版できました。図書館の検索機能もネットワーク対応のものができ、使いやすくなりました。情報処理センターは、大学の快適な情報基盤の整備拡充のために取り組んできました。ここ 2ヶ年の一般社会の情報通信環境が、その産業基盤とともに急速に変貌しつつあり、文化の枠組まで変えてしまう勢いです。これからも大学の情報基盤の強化拡充は留まることなく要請されることでしょう。ここでは、情報処理センター時代の最後の記念広報ということで、LAN のことや情報処理教育に関連するいろいろと思い出すことを書きました。

## 2 LAN のこと

昭和 63 年情報処理センター発足時には、研究利用や教育利用のための新しいコンピュータ群をレンタルで、メーカー各社の提案を参考にして、導入することから始まりました。当時ネットワークのことを調べていましたら、日本の主要コンピュータメーカーが提案する LAN は、今のとは異なって、汎用機につながるために設計されたものでした。しかしこれらの LAN の仕様はネットワーク関係の文献にはほとんど紹介されていないどころか、逆に「通信手順も公開していないようなものは LAN とはいえない」と酷評されているではないか。これから新しく LAN を設計しなければならない時に、日本を代表する企業のネットワーク技術に深刻な不安を覚えました。そんな時に外資系のメーカーの営業がやってきて、イーサネットでどんなマシンでもつながりますという。月間レンタル費用 600 万円以上もの高価なシステムを決めるのに、センターに移った時の私には大変な緊張でした。たまたま、理工学部土木工学科の先生方にお会いしたら、「なあに、そんなことでびくついていたんではだめ！我々なんか（計算違いで）山一つ崩したら何十億何百億と吹っ飛ぶんだから」と慰めてくれました。そうは言っても、やはり国費の無駄使いがないよう、その時々技術仕様で最適なシステムを設計することの責任は重い。当時の仕様書を見たら、「全学のパソコン・ワークステーション 250 台以上を接続すること」書いていました。今は全学で 2700 台以上の各種コンピュータがつながっています。

### 3 情報処理教育

新築の附属図書館二階の書庫スペースに50台のPCを並べて、プログラミング教育の他に一部情報リテラシー教育がはじまりました。この頃の仕様書に書かれた利用形態は、まだTSSという言葉がでできます。その次の機器更新の時には、PC150台が新築の大・中・小演習室に導入され、全学的規模ではじまる情報リテラシー教育に備えました。この時のPCの接続はまだ今のIP(Internet Protocol)接続ではなかったので、先生方からその後手厳しい批判があり、やむなくレンタル途中でIP接続に変更しました。また、その時に担当の先生方とともに設計した演習室のPC配置や、大演習室に入れた「教育支援システム」は使いやすいと評価はよかったようです。教育支援システムと言いますのは、教官のPC画面、OHP画面、Videoを教卓からの簡単な切り替え操作で出力する装置です。さらに本格的なリテラシー教育に備えて、受講学生20名に1名のTA( Teaching Assistant)を採用しています。学内措置によるこの制度を設けて7年目を向かえますが、今や前後期合わせて延べ約70名のTA(院生)がリテラシー教育に重要な役割を果たしています。

一昨年から全学生にIDを発行して、全学必須のリテラシー教育に対応しました。昨今のインターネット時代を反映して、学生の利用内容と利用人数(6000人以上)が一変しました。平日は午後8時まで、土曜日午後5時まで自習のために、演習室を開放しています。この前の土曜日には、「大演習室(108台)が満員になったので、中演習室(54台)も開けました。」と時間外管理の院生が言ってました。学期末のレポート作成と就職活動に使っているようです。

### 4 学術情報処理センターの発足

発足当初の情報処理センター概算要求書には、研究利用を最重要課題と要求しています。研究利用のためにセンターのマシンを科学技術計算で使うという利用者は少なくなりました。研究システムの利用登録者は一部教官の98人の時代から、教職員788人に増えていますが、殆どメールサーバの利用です。こんなふうに、時代とともにセンターシステムの利用内容・形態が変貌していくのでしょ。

本学の新しい学術情報処理センターの役割は、研究・教育の共通的情報基盤を整備拡充することの他に、電子図書館機能推進が新に加わりました。当面の課題として、貴重文献の電子化の他に、研究利用のための各種データベース構築や、学生向けの各種案内サービスのWeb化などが考えられます。またネットワーク管理では、犯罪を受けないシステム管理と同時に、正しいネットワーク利用のための教育・管理の努力も急がれるわけです。